

憲法を生かし 核兵器も基地もない 社会を子どもたちに

憲法・平和・核兵器廃絶
メールニュース第26号
2012年6月15日（金）
全教・国民共同局

市街地でレンジャー訓練 自衛隊が武装行進 散歩中の保育園児泣き出す （6/12 東京・板橋）

（写真は日本平和委員会の提供です）



6月12日（水）、陸上自衛隊は、東京都板橋区、練馬区の市街地でレンジャー訓練を行いました。朝8：30から12：00という白昼堂々、迷彩服、顔にも迷彩塗装、小銃、軍用リュックといういでたちで、市民の生活区域を武装行進しました。

このレンジャー訓練は、敵地に潜入し襲撃する任務を遂行できるように鍛え上げる、過酷な訓練です。東富士演習場で三か月にわたる訓練を終えた直後の自衛隊員17名が食料も十分にとらないまま、訓練の最終段階の武装行進を行いました。

「市街地に銃はいらない」「被災地支援ありがとうでも市街地での訓練はやめて」などと書かれたプラカードや横断幕を持った市民約500人が、行進が出発した荒川土手や駅前、沿道から抗議しました。抗議行動は、2012年日本平和大会 in 東京実行委員会などが呼びかけたものです。

板橋区の西台駅前でのリレートークには、

取材に来たジャーナリストの斎藤貴男さんも飛び入り参加。「自衛隊がアメリカと一緒に戦争できる国とすることを示している」と訴えました。一方、日の丸の小旗を振る人（自衛隊OBら）もいました。

多くの市民は、驚き、不安の表情で隊列を見つめ、集団で散歩中の保育園児が武装した隊員の姿を見て泣き出す場面もありました。

都教組、全教は訓練中止を申し入れ 訓練の計画を変更させる

この「行軍」計画に対して、日本平和委員会などを中心に何度も防衛省などに、「行軍」計画の中止を求めて要請しました。防衛省要請に参加した長尾全教副委員長は、「市民に説明するというが、子どもたちに理解できるのか。子どもたちは、昼間、銃をかかえて歩く隊員を見て、状況を理解できるだろうか。『戦争が起こったの？』と思う子もいるのではないか。子どもの驚き、ショック、心の傷をどう考えるのか。市街地での訓練は中止すべき」と厳しく追及しました。

防衛省は、抗議・要請を受け、規模の縮小、コースの大幅変更、荒川土手へのヘリ着陸の中止を行いました。計画を縮小しても異様な行進でした。戦争のための訓練はいりません。